

専門は社会経済学。岐阜出身。現在、スウェーデンを中心にして、雇用問題、福祉、男女均等、移民等について現地調査を行っている。ラテンアメリカにも興味があり、開発途上国の開発政策についても研究している。

1. 専門演習の目標

上記の雇用、格差、社会政策、経済政策等の問題を国際比較の視点を持ちながら勉強することによって、国際感覚を身につけてほしい。世界は広い。

2. 専門演習で扱う課題と内容

現在、経済、社会、文化のグローバル化が進んでいる。グローバル化は一面では経済的な発展を途上国にもたらしているが、他面では社会的格差を広げている。先進諸国でも例外ではない。グローバル化は、現在、新自由主義的なやり方で進んでおり、それが多くの問題を引き起こしているのだ。では、どのようなグローバル化がめざされるべきなのか。いや、そもそも、われわれがめざすべき社会とは一体どんな社会であるべきなのか。グローバル化の実態と課題を勉強しつつ、このゼミではそんな原理的な問題も考えてみたい。

3. 授業の進め方・内容

3 回生前期：グローバル化が社会にどのような変化をもたらしつつあるのかを、参考文献を読みながら勉強。昨年は、『人間開発報告-グローバルイゼーションと人権』（UNDP,1999年）を読んだ。

9月・海外調査(予定)。ちなみに、これまで、台湾、韓国、中国、ベトナム、シンガポールで、日系企業や現地 NGO などを訪問し、調査を行ってきた。行先、調査内容についてはゼミで議論。

3 回生後期：個別報告・各人が各人のテーマに基づき報告し、議論する

4 回生前期：各自のテーマに共通するテーマに関して文献を購読していく。

4 回生前期：卒研の作成に向け個別報告

これまでの卒研には次のようなものがあった。

「東アジア統合の行方」、「日本におけるフェアトレードの普及」、「フランスの移民対策に対する考察」、「マイノリティと日本人の共生社会」、「メキシコのストリートチルドレンと教育」、「日系企業の国際的展開の今後」、「日本の格差問題について」、「育児休業制度の国際比較-北欧と日本-」など。テーマは以上のように多様であるが、なんらかの形で国際比較の視点から課題が論じられている。

4. 必要とする知識

特になし

5. 関連する分野・科目・知識

国際社会論、社会経済学など。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

適時、伝達する。

7. 独自に付加する選考方法

特になし

8. 受講生に望むこと

卒研の執筆、積極的なゼミへの参加を期待する。「楽しく勉強しよう！」がゼミのモットー。